

令和2年11月18日

## 令和2年度学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会報告書

学校法人常松学園札幌工科専門学校  
学校関係者評価委員会  
教育課程編成委員会

### 議題

令和2年度前期の実施状況報告

1. 開催日時 令和2年11月21日(土)

2. 場所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室

3. 学校関係者評価委員

常松 哲	理事長
伊藤 幸一	理事
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
下原 英一	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長(企業等委員)
小林 勝美	緑化デザイン(株) 代表取締役社長(企業等委員)
古城 学	常松学園札幌工科専門学校同窓会長
松本 勲	モエレ町内会員
三上 敬司	校長
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長
大坂 道明	環境土木・造園施工管理科長

4. 教育課程編成委員

常松 哲	理事長
伊藤 幸一	理事
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
小林 勝美	緑化デザイン(株) 代表取締役社長(企業等委員)
伊藤 朋喜	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員事業本部副本部長 第二事業部長(企業等委員)
三上 敬司	校長
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長
大坂 道明	環境土木・造園施工管理科長

5. 資料

令和2年度 学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

# 令和2年度 学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

## I 教育理念・目標

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

<課題>（教育理念・目標 ②、③、④）

教育活動の基礎である教育理念・目標が学校と学生および保護者と共有されず教育活動の指針として生かされていない。

<報告>

### 1 教育理念に基づく教育目標の設定と徹底

#### 1) 教育理念

【少数人数制による親切・丁寧な分かり易い・わかるまでの教育】

学生が自立すること、社会と調和して暮らせることを教育の目的とする。「分る、できる」体験を通して自信を育み、忍耐強く学習活動に取り組む中で、周りの人々と豊かな人間関係を構築することにより確かな信頼感を築き、社会に向かう勇気を育むことを教育理念とする。

#### 2) 教育目標

- 基礎学力の向上を図る。
- 基礎的な専門知識と技術の習得
- 素直な心と良き社会人になるためのマナーの涵養

「分る、できる」ことを実感し自信をつける教育により、学生自身の自ら学ぶ意欲を引き出すことで、基礎学力や専門知識を習得させ、資格取得者や公務員一次試験の合格者を産みだすことを目指す。また、信頼感を養い社会に向かう気持ちを育て、結果、企業や公務員採用試験の採用を目指す。

#### 3) 教育理念・目標の徹底

- ① 教職員が自立心と社会と調和する教育理念を共有するために、教育計画の作成、実施、結果が出た時や問題があった時など、会議のみならず普段から話ができる関係づくりを教職員の目標とする。
- ② 教育計画書の充実と活用。
- ③ 学生募集時から入学希望者、保護者、進路指導教員、企業関係者への理解を図る。
- ④ ガイダンス、ホームルーム、教科指導時にも学生と確認する。
- ⑤ 教職員教育研修を計画的に行う。

様々な機会を使い、教職員は教育理念・目標を再認識し、より多くの人と共有することを目標とする。

### 2 教育目標に基づいた教育内容と教育目標を実践するための体制

#### 1) 教育内容

環境土木工学科は、従来通り土木施工管理及び測量士の指導を中心にし、公務員コースと民間コースを作り、希望者を分けて教育する。公務員コースの学生はさらに教養を深める。資格取得指導の中で有能感を育て、自信を養う。就職指導において教養と社会人におけるマナーを養う。

造園緑地科は、主に造園施工管理と造園・園芸装飾技能に学習内容を絞り、加えて土木施工、林業、樹木医を共通で学ぶ。さらに、発展として測量士補、ピオトープ管理士、生物分類検定、技術士補を受験希望者に個別指導する。2年次より林業公務員コースを作り、林業公務員と民間希望者と分けて教育を行う。コース分けによって、学生がより主体的に取り組めるようにする。

#### 2) 教育体制とカリキュラム

忍耐強く教育に取り組むためには、カリキュラム外の個別指導の時間も設定する必要がある。教員の指導時間を確保するために、授業時間数の適正化が必要になる。そのために、総カリキュラム数を削減し、土木、造園緑地、測量科、施工管理科の全科で、教養科目以外の専門科目においても共通科目を設定し、教員の効率的な配置を行い、協働体制を作る。

## 内容

- ① 週 20 時限（1 時限 90 分、4 時限/1 日、5 日/週 9：00～16：00）にし、5 コマ目（16：00～17：50）は個別指導を行えるよう総カリキュラムを削減する。環境土木工学科は、107 単位（3,210 単位時間）から 96 単位（2,880 単位時間）、造園緑地科は 109 単位（3,270 単位時間）から 94 単位（2,820 単位時間）に削減。
- ② 学科間で共通合同科目を設置する。
- ③ 学科を超えた担当教員を配置し担当教科の平準化により、学科を超え、教科を超えて学校業務の相互に協力体制を取り、多様な業務への参画を図る。
- ④ 選択必修科目により公務員、民間コースを設置し、より効率的な進路指導を行う。
- ⑤ シンプルなカリキュラムとし、学校全職員の相互理解を促進する。
- ⑥ ㈱イーエス総合研究所より紀本先生と IT 管理科の鈴木先生（情報処理担当）および新任で一色先生（土木施工担当）の 3 名が増える。服部先生（地図編集、測量、森林土木担当）が非常勤となる。

## 委員の意見

・令和元年度札幌工科専門学校自己評価結果 X 教育活動全体及び学生の実態について、昨年度と比較して良かった点・悪かった点の冒頭において、「合同授業が多く、大人数による弊害？欠席・居眠り・私語が増加しているのではないか。」と記されている。このことを踏まえ、学生や保護者からクレームを付けられる前に、本校の教育理念におけるキーワードの一つである少人数制を直ちにホームページや印刷物から削除するか表現を変更するとともに教育理念・目標を早急に見直すべきである。（前田）

・皆木先生担当教科を紀本先生と藤永先生で引き継ぐ方向で検討していただきたい。紀本先生に関しては、イーエス総研業務のウェイトが多くなる。藤永先生に関しては、お客様より学校中心で良いとの意見である。（下原）

・教育理念・目標が、学校、学生、保護者と共有されていないとの課題があるが、今回示されている方針を確実に実施し、社会全体への理解されるように活動していただくことが必要と思います。（伊藤朋）

## <令和 2 年度前期の報告>

### ・教育理念・目標の徹底

- ① 教職員が自立心と社会と調和する教育理念を共有するために、教育計画の作成、実施、結果が出た時や問題があった時など、会議のみならず普段から話ができる関係づくりを教職員の目標とする。

学生指導でトラブルが発生した時に協働体制が不十分な場面があった。継続的に教育理念・目標を確認する機会をつくり、教職員全体として取り組むことへの共通理解を図り続ける必要がある。

### ・教育体制とカリキュラム

カリキュラム変更に伴い個別指導を行う時間が設けられ、わかるまでの教育の実践がより行える状況になったが、教員によって活動状況に違いがある。

学科間の共通合同科目の設置により教員配置の標準をこころみたが、教科担当数の差は依然として残りまだ協働体制の確立には至っていない。教科担当の標準化をさらに進める必要がある。

コロナ禍によるオンライン授業でも教室を分けることにより過密になることを防ぐことができた。平常カリキュラムにおいても、一部合同授業で 33 人となっており以前のような大きい人数での合同授業は避けられている。年度により学科ごとの学生数の違いがあるが、今年は機材利用、授業編成の工夫、教員の負担により少人数制で教育を行える状況になっている。

## 委員の意見

- ・「教員によって活動状況に違いが有る」、「教科担当数の差が依然として残りまだ協働体制の確立に至っていない」については、教員間の意思疎通・指導体制の不備もあるのでしょうか。（下原）
- ・全員参加に理解を示さない職員が存在するとしたらそれが問題です。（松本）
- ・校名の札幌工科専門学校の工科は漠然としていて本校の実態を正確に表していない。分かりやすく、分かるまでの教育を目指すのであれば、まず校名を例えば札幌造園土木専門学校（Sapporo College of Landscaping and Civil Engineering）と変更する。この校名ならばどんな専門学校なのかを高校生でも理解できる。将来、造園緑地科と環境土木工学科を統合し、造園土木工学科とする。（前田）
- ・前期の報告で、教科担当の標準化が問題となっていますが、すぐに改善することは難しいと思いますが、今後も継続して改善を図って成果を上げていただきたい。（伊藤朋）

## II 学校運営

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

### <課題>（II 学校運営①、②）

経営方針の共通理解が図られ教育活動に反映されていない。学校運営が協働体制のもと、円滑に図られていない。

### <報告>

現状の教職員で学生定員を確保し、安定的な学校運営をすることを学校運営の経営方針とする。特に、造園緑地科は入学者が定員を下回っていることから、カリキュラムを含めた体制の合理化を図り、他学科を含めた協働体制をつくることで教育理念・目標が実践され、満足度の高い教育を提供できるようにする。さらに、求める学生像を明らかにして、入学希望者が受験しやすい入試制度を導入する。

#### 1 教育理念・目標の共有

カリキュラム変更を行い教務・総務に教員を配置し、全員で校務にあたるようにする。

#### 2 カリキュラム変更

前項参照 別紙試料

#### 3 入試改革

造園緑地科

##### 1) AO 入試及び推薦入学生の導入

造園緑地科の求める人材像は、専門分野への興味と学習意欲を持ち、将来専門分野の業界への就職を希望する熱心な学生である。そのような学生を念頭に置き、本校の教育理念・目標を実践できるようにカリキュラム編成を含め教育体制と入試制度の変更を行う。本校の一般入試は10月から始まり、数学と作文及び面接を行っている。しかし、AO入試制度は時期の縛りがなく大学、短大は7月までに概ね合否を決定されている。多くの大学、短大においてAO入試による入学生の割合は半数近くに上がり、今後、その割合がますます高まると予想されている。造園緑地科では、目的意識を持った学生を確保するため、より広く本校を受験できるよう体制を整えたいと考えAO入試及び推薦入試を導入することとする。

##### 2) 理想とする学生像 造園緑地科 アドミッションポリシー

○造園緑地分野に興味を持ち、その分野に就職する意識を明確に持っている人。

○造園緑地の専門知識・技術・技能の習得に忍耐強く取り組むことができる人。

○他人を尊重し、協力して職務をやりとげようとする人。

にかなう学生を積極的に募集する。

## 委員の意見

- ・カリキュラムの変更と入試改革によって学校運営上の効果が期待されるが、本当に定員を確保できると良いのですが。（前田）

・造園緑地科と環境土木の統合検討必要では。(下原)

・特に造園緑地科の入学定員を割っているとのことですが、対象年度の卒業予定者以外の学年もターゲットとして活動することも必要と思います。(伊藤朋)

#### <令和2年度前期の報告> (Ⅶ 学生受け入れ募集状況を参照。)

造園緑地科では AO 入試の導入など入試改革とカリキュラム変更また、広報及び学生募集活動を行った結果、入学希望者が 10 月現在 7 名と上昇している。しかし、定員を満たすまでには増えていない。

現在、企業委託制度を利用して本校の土木・測量学科に社員を入学させている企業は、建設及び測量設計会社をあわせ過去 5 年で延べ 125 社に上る。また、北海道測量設計業協会も入学奨励金制度を設けている。造園業界では㈱コクサクが企業委託制度を利用し、1 年制施工管理科造園コースへ 4 名の学生を入学させている。2 年課程が安定的運営されることが学校全体として安定につながる。

今後、安定的に入学生を確保していくために業界や企業と連携していくことが不可欠になると考えられることから、造園緑地科においても個別の企業に加え(一社)北海道造園緑化建設業協会などの関連団体と連携し学生募集を行いたい。加えて、高校においても造園緑地科に関連する教育を行っている学校を主として指定校推薦制度を設け、高校入学時から進路指導などで連携し、造園業界を希望する人材を確保したい。業界が求める技術や資格と入学生が求める内容、さらに経済支援度などから入学希望者の動向を把握し、学科の在り方を判断したい。

#### 委員の意見

・業界、企業、協会等と連携し学生募集について、具体的計画を立てて、主に動く人、スケジュール等を明確にしないと理想論で終わるのでは。(下原)

・社会(企業)が求めているニーズを的確につかまえて多くの技術者を育成すべきです。本校は北海道でこれができる場所であると思っております。(松本)

・複数の女性の意見を聞くため、株式会社イーエス総合研究所以外の女性技術者・科学者に両委員会の企業等委員をお願いする。(前田)

・高校入学時から進路指導や業界との連携による学生の確保は有効と思います。今まで通りではなくあらゆる手段を使って、魅力を伝えることも必要と思います。(伊藤朋)

### Ⅲ 教育活動

前回の委員会での報告内容(令和元年度の学校自己評価による報告)

<課題> (Ⅲ教育活動②、③、⑤、⑥、⑧、⑭、⑰)

効果的な教育課程編成及び実施が行われていない。マナー指導や社会性を身に着けさせる指導が不十分。人材確保及び育成に課題。

<報告>

業務の効率化が求められる中で、現カリキュラムでは教員の適正配置が困難になったことと、入学生の質の変化により、教育理念・目標を実現することが難しい状況であった。そこで、前項までの報告と同様に以下のことについて再検討し、現在の教職員体制で教育理念・目標を実践し、より満足度の高い教育を行えるような体制の構築をおこな

う。

- 1 教育理念・目標 年度教育方針の確認と共有。
- 2 教育理念・目標に基づくカリキュラムの編成。
- 3 教職員の意識向上のための行動。
- 4 教育理念・目標を具現化する教育活動。
- 5 モラル、ルールの再確認と信頼関係の構築

#### 委員の意見

- ・マナーや社会性に関する指導は、反した行動を見た時、すべての先生がその都度、その場面で指導する。教員間の情報共有。(伊藤幸)
- ・専任教員を増やし、特に女性教員を採用するとより良い。非常勤教員にも博士号を持つ女性を採用するとより良い。(前田)
- ・マナー指導や社会性を身に付けさせる指導が不十分とあるが、専任の教員を確保し継続的に改善していくしかないと思います。(伊藤朋)

#### <令和2年度前期の報告>

##### 1 新型コロナウイルス関連

学内に「新型コロナウイルスの対応マニュアル」を制定し、感染予防対策を実施しながら授業を行っている。

##### 1) 授業について

- ・北海道からの要請に応え4月15日(水)～5月6日(水)まで臨時休校した。
- ・前期時間割を座学系と実習系に分けて再編成し、5月7日(木)からZoomを使った遠隔授業にて座学系を実施した。
- ・6月8日(月)から全ての学科で対面授業を再開した。
- ・40名を超える合同授業では、教室を2つに分け、片方の教室へZoomでライブ配信することで密集を避けた。9月7日(月)の後期授業からは、時間割を再編成し、担当教員がそれぞれの教室で通常授業を行っている。担当教員の負担は増加したが、配信による授業の不公平感は解消した。

##### 2) 行事について

- ・入学式(4月)・・・中止し、学生のみ入学ガイダンスとした。
- ・健康診断(4月)・・・延期し6月下旬に実施した。
- ・体育大会(6月)・・・中止した。
- ・救命講習(9月)・・・10教室に分散し実施した。
- ・全校現場見学会(9月)・・・学科ごとに訪問先を分散し実施した。
- ・学園祭(10月)・・・中止した。
- ・予餞会(1月)・・・今後検討する。
- ・卒業式(3月)・・・広い会場で実施予定。

### 3) 健康管理について

- ・学生の登校時に玄関前で①マスク着用の確認②自宅での検温結果や体調の聞き取り③非接触型体温計による検温④手指の消毒を実施している。

### 委員の意見

- ・マナー指導、社会性を身に付けさせる指導については、従来の教員による指導から見地を深める方向で一度外部専門講師による勉強会を教員並びに学生で聴講する方法もあるのでは。(下原)
- ・学内だけでなく、生活全般に渡っての学生指導をすべきです。校内ではやっても外で同じ事を守っていなければ防止することはできません。(松本)
- ・教員の構成は非常勤教員を減らし、専任教員を増やすべきである。特に、若い女性または男性教員を採用する。(前田)
- ・コロナにより教育活動が大きく変化している中、行事等も思うように行えない状況で生徒や教員にも大きなストレスがあると思うので、ケアにも心配りが必要と思います。(伊藤朋)

## IV 学修成果

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

### <課題>（IV学習成果①③）

基礎学力の向上および社会人マナーの涵養が十分に行われていない。

### <報告>

中小企業を中心とした建設業、造園業、林業及び国そして北海道などの公務員採用はいまだ売り手市場で、本校の卒業生もほぼ希望通りの就職をしている。また、2級施工管理技士の学科試験も年2回受験できるなど受験機会が拡大され、以前に比べると就職や資格試験受験のハードルが下がったと考えられる。現在、就職及び資格取得などの成果が上がっているが、その過程で基礎学力の向上や社会人になるためのマナーなどの教育目標を十分に達成したとは言い難い。教職員自身の社会性や企業から求められる人材像などに対する意識向上が重要である。前項までと同様に、教育目標・理念及び目標の理解とそれに基づく教育活動がなされるよう、様々な機会を計画的に設け、常に共有されるよう活動を行う。

### 1 退学及び休学者（令和2年3月3日現在）

#### [退学]

- ・環境土木工学科1年 1名（病気）
- ・環境土木工学科2年 1名（無断欠席・進路変更）
- ・環境土木・造園施工管理科 環境土木コース 1名（進路変更）

#### [休学]

- ・環境土木工学科1年 1名（病気）
- ・測量情報科 1名（病気）

### 2 資格取得及び就職状況

#### [資格]

- ・測量士補 1名合格
- ・2級造園技能士 4名合格（100%）
- ・2級園芸装飾技能士 3名合格（100%）
- ・3級造園技能士 5名合格（100%）
- ・3級園芸装飾技能士 5名合格（100%）
- ・ブロック建築3級技能検定 2名合格（100%）
- ・2級土木施工管理技士（学科） 前期 2名合格 後期 21名合格
- ・2級造園施工管理技士（学科） 後期 7名合格
- ・2級管工事施工管理技士（学科） 後期 4名合格
- ・生物分類技能検定3級 1名合格
- ・2級ピオトープ施工管理士 1名合格

#### [就職]

- ・国家公務員（一般・大卒）技術北海道 最終合格 1名
- ・ // 林業 最終合格 1名
- ・ // （一般・高卒）技術北海道 最終合格 12名（内、1年生1名）
- ・ // 林業 最終合格 2名
- ・ // 農業土木 最終合格 1名
- ・陸上自衛隊（技官） 最終合格 1名
- ・北海道職員（総合土木B） 最終合格 12名（内、1年生1名）
- ・ // （林業） 最終合格 3名（内、1年生1名）
- ・青森県 1次合格 1名
- ・札幌市（短大の部） 土木 最終合格 1名
- ・北見市 土木 最終合格 1名
- ・民間企業 5名内定

### 3 技能五輪全国大会

- ・「造園」職種に1名出場（令和元年11月14日～18日 愛知県）



## 委員の意見

- ・資格、就職に関する成果は上がっている。社会人マナーについては前項同様。(伊藤幸)
- ・資格取得と就職状況が素晴らしい。(前田)
- ・本校への学生募集活動での女性の公務員チャンスをアピールしてほしい(一次官庁より要望)。(下原)
- ・資格取得は100%であり、今後も継続して維持できるように指導することが望まれます。(伊藤朋)

## <令和2年度前期の報告>

### 1 退学及び休学者(令和2年11月18日現在)

#### [退学]

- ・環境土木工学科1年 1名(学業不振)

#### [休学]

- ・環境土木工学科2年 1名(学業不振)
- ・環境土木・造園施工管理科 環境土木コース 1名(病気)

### 2 資格取得及び就職状況

#### [資格]

- ・測量士補 5月→11月に延期 1名受験予定
- ・技術士補(森林部門) 3名受験
- ・2級造園技能士 中止
- ・2級園芸装飾技能士 中止
- ・3級造園技能士 7月→12月に延期 4名受験予定
- ・3級園芸装飾技能士 中止
- ・2級土木施工管理技士(学科) 後期 42名受験
- ・2級造園施工管理技士(学科) 後期 8名受験予定
- ・2級管工事施工管理技士(学科) 後期 3名受験予定
- ・2級ビオトープ施工管理士 1名受験

#### [就職]

- ・北海道職員(総合土木A) 最終合格 1名
- ・ " (農業土木A) 最終合格 1名
- ・陸上自衛隊(曹候補生) 最終合格 1名
- ・国家公務員(一般・高卒)技術北海道 最終合格 5名
- ・ " 林 業 最終合格 1名
- ・北海道職員(総合土木B) 最終合格 5名
- ・ " (林業) 最終合格 3名
- ・札幌市(短大の部) 土木 最終合格 1名
- ・根室市 土木 最終合格 1名
- ・根室管内職員 土木 最終合格 1名
- ・民間企業 5名内定

## 公務員の割合

学科\卒業年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木工学科	6/12名 50%	16/27名 59.3%	9/19名 47.4%	5/20名 25%	17/22名 77.3%	9/18名 50%	-/14名 %
造園緑地科	0/6名 0%	3/8名 37.5%	7/10名 70%	3/6名 50%	5/6名 83.3%	3/4名 75%	-/2名 %
測量情報科	0/15名 0%	0/8名 0%	0/19名 0%	0/11名 0%	0/13名 0%	0/15名 0%	—
環境土木・造園 施工管理科	0/11名 0%	0/19名 0%	1/15名 6.7%	0/18名 0%	0/17名 0%	0/29名 0%	—

※1年次修了生は当初の卒業年度の人数を含む

公務員合格者ほぼ全員が2年課程の環境土木工学科、造園緑地科の学生であった。また、環境土木工学科の学生が国家公務員農業土木職で受験し林野庁での採用になったほか、造園緑地科の学生が土木職で受験し国土交通省地方整備局や福島県の採用になっている。また、両学科の学生が土木と造園施工管理技術検定試験の両方を受験し合格している。教員と教科目さらに学生指導など今まで以上に連携を取っていくことで、2年課程として安定的な成果を上げていくことが可能である。

## 委員の意見

- ・本校入学時点で公務員技術職になれるチャンスを具体的に説明する機会として、従来実施している官公庁オリエンテーションで若手含め札幌工科専門学校卒生で現行政管理職の立場の卒業生も出向いていただく方向で如何でしょうか（公務員希望学生に対して自身の将来像可能性も描ける）。（下原）
- ・公務員希望が大多数ではないかと思っていましたが、そうでもないことが分かりました。50%の合格率ですのでかなり希望する学生にとってはアピールになると思います。（松本）
- ・資格取得と就職状況は素晴らしいので、各種イベントに参加しPRする。（前田）
- ・コロナ禍でも多くの生徒が、資格・就職の成果を上げていることは素晴らしいと思います。（伊藤朋）

## V 学生支援

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

<課題>（V学生支援⑨⑩⑪⑫）

学内及び学外また一般の方への教育支援及びボランティア活動は、担当教科内や担任など個別に活動を行っているものも一部あるが、学科や学校全体として組織的に活動している内容はまだ少ない。

<報告>

1 学科を超えた学生への対応

学生の多様な希望（公務員大卒程度受験、他分野受験（造園緑地科の土木施工管理技士受験、公務員「農業土木区分」受験、技術士補試験指導等）にしている。

2 外部への対応

国家資格取得についての外部の希望には応えられていないが、北海道職員の技術研修を行っている。

3 社会人への経済的支援  
国の修学支援新制度対象校に認定

4 課外活動の単位化  
今後、市域社会への働きかけを組織的に行えるよう意識を高めていく。

#### 委員の意見

・正課を充実させることが基本であることは言うまでもない。その上でそれ以外の活動は個別（学科別）ではなく学校として活動することが望ましい。（伊藤幸）

・マナー指導では、誰にでもできるボランティア活動として歩道周辺のごみ拾いを年に数回ではなく、月に数回行い、習慣にすると良い。（前田）

・教員の人数にも限りがあると思いますが、積極的にボランティア活動を行っていく必要があると思います。（伊藤朋）

#### <令和2年度前期の報告>

##### 1 国の修学支援新制度

2020年4月より国の修学支援新制度（給付型奨学金＋学費減免）が開始され、2年生のうち3名が利用している。

##### 2 新型コロナウイルス関連の経済的支援

日本学生支援機構の「給付型奨学金（家計急変）」、文科省の「学生支援緊急給付金」など、コロナの影響で経済的に困難になった家庭への支援について情報提供しているが、現在のところ希望者は出ていない。

#### 委員の意見

・現在ボランティア活動はどのような事をしているのか。札幌工科専門学校は地域の理解もあり学園祭等で地域活動を行っているが、学校近くでの冬季間の一人暮らし高齢者宅の除雪ボランティアなどは過度ですか（人に感謝されるボランティア活動体験も教育）。（下原）

・情報をわかりやすく発信しているのだと思います。本学生は家庭的に恵まれているのだと思いました。（松本）

・マナー指導では、誰にでもできるボランティア活動としてモエレ団地の歩道や車道のごみ拾いや除草を年に数回、できれば毎月行う。また、モエレ町内会の意見を聞き、歩道や後期高齢者宅の除雪ボランティアにも挑戦し、地域住民に喜んでいただく。なお、本校に対するモエレ町内会の要望などを聞くため、株式会社イーエス総合研究所社員やその家族ではなく、例えば町内会長に両委員会の委員をお願いする。（前田）

## VI 教育環境

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

<課題>（VI教育環境①②⑦）

学科ごとの入学者数に極端にばらつきが生じ、従来のカリキュラムでは教室や実験室などの利用がスムーズにいかないことが多くなっている。結果、さめ細やかな教育を行うのに支障が見られた。また、防災用具の購入により体制は整備しつつあるが、実際に使えるようにするための訓練等の実施の必要性が求められた。

<報告>

1 物品の整備

ノートパソコンや測量器具など実習時に必要不可欠な機材の数を購入し、対応した。

2 カリキュラム変更

教室、機材、教員を合理的に使えるようカリキュラムの共通化、整理統合、削減を行う。

3 カリキュラムの適正化により校舎内外の管理の充実

校舎内外の設備のメンテナンスを行い常に最大限に使えるように整備しておく。

### 委員の意見

- ・社会のニーズを捉え、柔軟に対応する。「今まで通り」が通用しなくなっている。（伊藤幸）
- ・防災グッズはどんな物ですか。（前田）
- ・防災用具を購入されたとのことですが、年に1度は実際の訓練の実施も重要と思います。（伊藤朋）

### <令和2年度前期の報告>

コロナ禍で4月からの授業変更、Zoomによる遠隔授業と教室隔離による同時授業を行い、前期授業は多くの教職員の協力のもとカリキュラムを遂行することができた。後期は平常授業を行っているが担当教科の集中などがあり、教科数の標準化などのさらなる対策が必要な状況である。

防災グッズは、寝袋・災害用毛布・非常食・水・アルミマット・簡易トイレ・保温遮熱シート・LED懐中電灯・防刃軍手・発電機を購入した。

### 委員の意見

- ・最も気をつけなければならないのがクラスターであると思います。授業ができなくなります。（松本）
- ・「後期は平常授業を行っているが、担当教科の集中などがあり、教科数の標準化などのさらなる対策が必要な状況である。」とのことだが、非常勤教員を減らし、専任教員を増やして抜本的な処置をとるべきである。（前田）
- ・今後は、デジタル化が急速に進化することが考えられるため、教科書等のデジタル化等への対応した設備も将来的に必要なと思います。（伊藤朋）

## Ⅶ 学生の受け入れ募集

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

<課題>（Ⅶ学生の受け入れ募集①～③）

大学への高い進学率が続く中、専門学校への進学者は学習意欲、基礎学力の低下が顕著な学生も少なくはなく、技術者の育成を目標とする、本校の求める学生像と乖離する入学生が増えている。特に、造園緑地科の入学生は減少している。

<報告>

学校の教育理念に立ち返り、自信をつけさせ社会に調和をする心を養う教育を行う体制をもう一度構築し、一人ひとりに合わせた教育を行い、国家資格取得や高い公務員合格率、就職率と経済面の利点など大学にはない価値を高校生中心に強く打ち出し、大学進学希望者を引き込みたい。そのために教育課程の見直し、入試選抜方法の検討を行い、教職員による積極的な広報をおこなう。

- 1 利用しやすい入学試験を目指し、AO入試、推薦入学の導入（造園緑地科）
  - ・本校の求める人材を的確に確保する。
- 2 業界との連携
  - ・学校の体験入学のほか、造園緑地科で現場体験実習を実施し、学校内容を紹介する。
- 3 ホームページ及び高校での広報
  - ・学科教員が週一日広報活動を行えるようカリキュラムを編成し、高校訪問を行う。
  - ・ホームページのスマホ対応やリニューアルを予定している。
- 4 広い分野のカリキュラム
  - ・学生の希望に応じた関係分野への対応ができるカリキュラム作成。
- 5 教育目標の設定及びカリキュラムの改編（別紙）
  - ・広報活動を戦略的に行うためにも、学生教育目標と求める学生像を再度明確化する。

委員の意見

- ・今後、一般学生が益々集まらない可能性が高く、企業委託生を主な対象とする学科の統合も検討するべきである。（前田）
- ・建設系の魅力を前面にアピールして、業界全体で学生を育成していく必要があると思います。（伊藤朋）

<令和2年度前期の報告>

学科\入学年度		H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木 工学科	体験参加数	37	24	33	37	23	24
	出願数	32	24	29	33	19	14+見込 1
	入学数/定員	24/25名	21/25名	26/25名	23/25名	15/25名	/25名
	定員充足率	96%	84%	104%	92%	60%	
	委託生の割合	2/24名 8.3%	3/21名 14.3%	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	
造園緑地科	体験参加数	16	10	15	8	12	12
	出願数	13	8	10	5	2	4+見込 5
	入学数/定員	12/20名	6/20名	8/20名	5/20名	2/20名	/15名
	定員充足率	60%	30%	40%	25%	10%	

	委託生の割合	0/12名 0%	0/6名 0%	0/8名 0%	0/5名 0%	0/2名 0%	
測量情報科	体験参加数	6	12	6	17	10	7
	出願数	8	20	15	15	15	6+見込 5
	入学数/定員	8/10名	19/10名	12/10名	14/10名	15/10名	/15名
	定員充足率	80%	190%	120%	140%	150%	
	委託生の割合	5/8名 62.5%	13/19名 68.4%	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	4	8	7	8	19	4
	出願数	20	17	22	20	33	19+見込 2
	入学数/定員	19/10名	15/10名	20/10名	18/10名	30/10名	/15名
	定員充足率	190%	150%	200%	180%	300%	
	委託生の割合	18/19名 94.7%	13/15名 86.7%	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	
全 体	体験参加数	63	54	61	70	64	47
	出願数	73	69	76	73	69	43+見込 13
	入学数/定員	63/65名	61/65名	66/65名	60/65名	62/65名	/70名
	定員充足率	96.9%	93.8%	101.5%	92.3%	95.4%	
	委託生の割合	25/63名 39.7%	32/61名 52.5%	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	

※R3 入学生の出願見込は 11/18 現在の情報

リクルートのシステム「スタディサプリ for marketing」で資料請求者を管理している。2020年3月には道内・東北地方の注力高校へ、AO・学校推薦入学とカリキュラム変更、高等教育の修学支援新制度等についての案内を郵送した。5月には新パンフレット・募集要項が完成し、保有名簿の中から来春入学が見込める約750人と高校約200校の進路指導部へも発送した。

体験入学については、午前中にオンライン、午後から通常対面を用意し、5・6月は公共交通機関を利用しての来校はご遠慮いただいた。例年3回開催していた夏休み特別体験入学は、休校の振替授業のため2回開催となったが、19名の参加がありコロナの影響は大きく無かったと言える。

メールアドレスや学校公式LINE登録者には、適時、体験入学や相談会等の情報を配信しており、数人から反応がある。LINEでの個別の質問にも対応し、入学希望者と接触を図っている。

また、高3生から資料請求があった場合には、広報担当者をはじめ校長、岩瀬教員等が札幌近郊の高校を中心に訪問し、進路指導部へ本校の情報提供や資料請求者の進路情報を得ている。

コロナの影響で春の相談会は延期となり、9月頃から開催されるようになったが、対象が高1・2生となっているため即時の効果は得られていない。

造園緑地科ではAO入試の導入などの入試改革、高校訪問の強化他により11月現在入学見込みの学生は9名と増加傾向にあるが定員数には及ばない状況である。造園緑地科は企業委託等業界連携による入学者がいない。今後（一社）北海道造園緑化建設業協会との協力により効果的な学生募集が可能かどうか協議を行っている。

環境土木工学科では従来通りの学生募集を行っているが、今後、(一社)札幌建設業協会からの支援として、奨学金による学生への経済的支援や、札幌地下歩行空間でのイベント(建設業界や学校紹介のパネル展示)等の話をいただいている。若手技術者の不足が深刻となっており、業界が一丸となって人材を集める必要がある。

#### 委員の意見

- ・学校も収益団体であり、学生の確保が絶対条件です。新型コロナウイルス感染で経済情勢も不透明な中、比較的建設業関連産業の影響が少ない状況に置いて今後建設業関連産業への官民での技術者採用も期待できる方向で学生並びに父兄の考え方も変わる可能性が期待されています。これらの状況を踏まえ、道内高校並びにゼネコン、測量・コンサルへ建設業関連産業の実情を把握している行政技術職経験者(OB)と学校関係者の訪問活動を試みるのも有りでは。(下原)
- ・道内唯一の学校でありますので、アピールの方法はあると思います。企業委託生は多いのでこれを活かすのも良いのでは。(松本)
- ・業界の情報や協力を得て、造園緑地科の定員 15 名を確保するため、業界関係者として(一社)北海道造園緑化建設業協会理事長や企業等委員として株式会社コクサク代表取締役早坂有生氏に両委員会の委員をお願いする。(前田)
- ・IT を活用した積極的な情報提供がなされていますが、特に造園緑地科は若手技術者の不足が深刻な状態とのことです。業界と連携してその魅力を積極的に配信していく必要もあると思います。(伊藤朋)

## Ⅷ 財務

前回の委員会での報告内容(令和元年度の学校自己評価による報告)

#### <報告>

本校の収入のほとんどが、教職員の人件費となっている。人件費の支払いを賄うための学生数は 90 人である。設備等大きな買い物は、会社の寄付による。以上のことを念頭に、持続的な学校運営を行う。

#### 委員の意見

- ・私学は基本的に収益団体であり、サービス業である。収益を上げる為に、学生の確保、サービス向上、経費の削減を常々考えていかなければならない。(伊藤幸)
- ・若々しい専任教員、特に女性の専任教員を採用するため、人件費を確保するべきである。(前田)
- ・持続的に運営するために、会社への依存を減少させていく必要もあります。(伊藤朋)

#### <令和2年度前期の報告>

造園緑地科では学生数の低迷が続いている。2年制学科の安定が学校の安定的運営につながる。少子化の中で学生を安定的に集めるために、カリキュラム、入試、学生募集について変更をおこなった。さらに、業界と高校との連携を図り安定的な学生募集が行える方法を構築する。

### 委員の意見

- ・道内の高校生の進学就職等の実状・希望・地域の実状などの情報はどのように把握していますか。  
(下原)
- ・業界からのアピールが必要とともに、カリキュラムを一般向けするものにした方が高校生も興味が出るのではないのでしょうか。(松本)
- ・若い女性または男性専任教員を採用するため、人件費を確保するべきである。(前田)
- ・コロナ禍での経済への影響により、企業委託生も減少する可能性もあり、安定した学生確保の方策を早期に検討する必要があると思います。(伊藤朋)

### 区 法令等の遵守

前回の委員会での報告内容（令和元年度の学校自己評価による報告）

〈報告〉

概ね妥当である。

### 評価委員の意見

- ・令和元年度札幌工科専門学校自己評価結果区法令等の遵守の所見において「いかなる理由があれ虚偽の報告はいかなるものか」と記載があるが、学校法人としてあってはならないことであり、本校の体質を改善しなければならない。  
(前田)

### 〈令和2年度前期の報告〉

特になし。

### 委員の意見